

## 『幼稚園の現場から』

# 37・満3歳児の保育2

原町幼稚園園長 鶴谷主一（静岡県沼津市）

前は、幼稚園の満3歳児保育について制度の概要と、最近気になる発達の遅れについてレポートしました。今回は、原町幼稚園に勤務する満3歳児クラスを担当したことがある保育者から「満3歳児保育について」具体的な声を集めました。フタを開けてみるとリアルな現場の声の中に2歳児から3歳児になる子どもの育て方のヒントもたくさん出てきて、幼稚園での満3歳児クラスを受け持った保育者だけでなく、その年齢の子育てを苦労しておられるお母さん方へのヒントになるような内容になっています。育児書ではたくさん解説も出ていますが、現場目線でレポートしていきたいと思います。

まず、この年齢の子どもってどんな時期？

### ◆2歳～3歳は乳児から幼児になる時期

イヤイヤ期とも言われるこの年齢、保育者が口を揃えて言っているのは「乳児から幼児へ成長する時期」……保育者にはよくわかる言い方ですが、具体的にどうということでしょうか？

- ▶できるよになることも多い、やりたいことも多いがまだまだできないことも多い。そして個人差も大きい！
- ▶やりたい！気持ちがいっぱいあって、それを満たしたい！

こんなニュアンスで伝わるでしょうか？

気持ちはあっても、なかなか思うようにできないもどかしさを感じ始めている……けど言葉では伝えられない……。本人もやきもきしながら、受け身であった乳児から、自分でやりたいこと・やれることを見つけて幼児へと脱皮していく。第一子を子育て中のお母さんは、そんな子どもの変化（成長）が理解できず、「なんでイヤイヤしてるの？」「なにがしたいの！？」と戸惑い、かいじゅうに見えるってしまうかもしれませんね。（^ \_ ^）;

しかし、この時期に適切に「やらせて」もらえないと、あとの発達に影響を与えてしまうことも感じます。保育園に入園していれば、保育園から発達と適切な対応の情報が家庭に届けられるのですが、幼稚園二歳で3歳まで家庭で子育てをしていらっしゃる皆さんにとっては、専門家からの情報もなかなか届かないことと、遊んだり同年代の子どもとふれ合う環境も限られるので、発達も遅れがちになるのではないかと思います。

そういう意味で、幼稚園の子育て支援や満3歳クラスのあり方を今後強化していく必要があると考えています。

**お母さん**でこの文章を読んでおられる方がいらっしゃったら、この時期のお子さんの状態を理解して、失敗を前提の上で「まあいいや」「まあ、やってごらん」という大らかな気持ちでお子さんと向き合えることを願っています。保育者のテクニックを参考にして、家でもやってみるとスムーズに行くかもしれません。ただ、この時期は個人差が大きいので、あくまでも一つの方法として捉えて欲しいです。自分のお子さんにどんな方法が良いのか、それはいろいろ楽しみながら試して頂けると良いと思います。

## ●この時期の親子の全体的な傾向

- 核家族化などで母親が一人で子育てするケースが多く、適切なアドバイスをしてくれる人もいない。
- 特に第1子、また高齢出産の子を預ける場合子どもも含め経験不足ことがある。単に心配やかわいがりすぎということもあるが、母親自身が経験不足なことに気づいておらず、どうしたらいいかわからないようである。
- 遊び方がわからない、声かけがわからないなど、どのように関わったらよいかわからない親もいる。
- 保育や教育について情報ばかりがたくさんあり、頭でっかちになってしまう傾向にある。
- 人のおもちゃをとってしまわないか、泣いて困らせてないか、ケガをしないかなど心配事が多く、不安材料を消すために友だちとトラブルが起きないように避ける、遊具をやめさせる（経験させない）。そのため子どもが動きたいように動けていない。
- できないと決めつけて、挑戦させていないことも多い。
- 心配しすぎてしまい、子どもより大人が不安になってしまう。

### ●援助をしすぎる傾向がある

- 例えば「着替えや靴の脱ぎ履きを親がやってしまう」
- オムツ（パンツ）替えの際、いつまでも寝転ばせてする。
- ストローでしか飲んだことがないからコップで飲めない。
- いつも抱っこだから階段を降りられない等、乳児の時と同じ関わり方がそのまま。
- 手が汚れるのを防ぐため、おやつや食事を食べさせてしまう。
- 結果経験が少なすぎて子どもが自分でできることが少なくなっているし、自分でやろうとする意欲もしぼんでしまっている。

### 《担当保育者のコメント》

- ▶子どもの「やって」は、気持ちを受け入れ応えてあげる必要はあるが、全部やってあげないで「途中までやってあげる」+「一緒にやってみる」（=見守る、応援する）にしてみるのも良い。
- ▶入園までは「やってもらう」が1番だったが、「自分でやってみる」に切り替える。ただやらせるのではなく、始めに手を取り、コツを伝え、見守るなど段階を経ていく。（♪パンツのはきかた♪など歌やメロディーにのせ



7月、浜までおさんぽ。まだ4人でのんびり



むぎ茶、いれたげるね♪

て伝えるのも有効) たくさん褒めることでまた自分でやりたい! につなげる。

- ▶他児と比べる必要はないが、他児を見ることでたくさんの可能性を知ることができる。
- ▶幼稚園に来てくれば、子どもにとって適切な時期に適切なアプローチができるというメリットがあると思う。
- ▶園で経験させる場を作り、子どもの様子を見たり、実際にできることを認識しながら母親にアドバイスを伝えている。
- ★赤ちゃんに見えて、少しずつ自立してきている時期なのです。やらせなければ、できるようにはなりません。



## ●トイレトレーニングについて

- 満3歳児でのトイレトレーニングがベストでとてもスムーズだと考えています。逆にこの時期を逃してしまうとトイレに対する変な恐怖心が芽生えたり、鈍感になってしまうのでその後はなかなか難しくなる。
- ※実際に年少組まで引きずって入園した子どもは時間がかかるし本人も苦勞する。具体的には園のトイレに行けずに帰るまで我慢してしまったり、オムツを履かないとおしっこが出なかったりする。期間は個々に違うがおよそ半年～1年、ウンチは年長までオムツを履かないとできないケースもありました。
- オムツで登園するのはもう珍しい満3歳児クラスで、股にスナップの付いたロンパースタイプの肌着を着ていた子どもがいた。自分でトイレに行きたくてもスナップをはずすことはできないし、はずしても肌着が邪魔でうまくおしっこができない。保育園では1歳児クラスからロンパースタイプではない肌着を持ってくるようお知らせが出るが、家庭ではそのような情報が入ってこず、サイズのまだ着られるから…とずっと同じものを着せてしまうのだろう。

### 《幼稚園では》

- ▶はじめは保育者が時間に余裕を持って、個々のおしっこ間隔を把握してトイレを促していく。何度もトライする。
- ▶成功体験を重ね、たくさん褒めることで自らトイレに行きたがるようになる。
- ▶自信がつき、自分でも感覚が掴めトレーニングが完了してくる。
- ▶他児の姿を見てイメージが湧き、できるようになる子もいる。
- ▶失敗しても絶対責めたりせず、前向きな言葉掛けをする。
  - ex. 「おしっこ出ちゃったね」「気持ち悪いよね!きれいにしよう!」「次はトイレに行ってみようね」「トイレですると気持ちいいよね」etc…
- ▶無理強いはいらないがテコ入れをする。
  - ex. 「イヤ!」という子どもには?
    - 遊びに集中している場合→「後でいこう」(タイミングをずらす)
    - 「これができたら行こう」(目処をつける)
    - とにかくイヤだという場合→「トイレ、パンツ」のワードを使わず、だましまし脱がせるのも一つの方法。「何かズボンについでるよ」→脱がす
    - 「パンツにもついでるかも!ちょっと見せて」→脱がす
- ▶親は園に迷惑をかけるという意識で申し訳ないと言葉をかけてくれるが、お漏らしの失敗からトレーニングは始まるので気にしないで欲しい。
- ▶親はトイレトレーニングを園に任せてしまいがちですが、園だけで行のはNG!園でやっているも家でやらないといくらやっても先へ進まない。また、子どもが園と家を使い分けるようになると、

家でのトイレトレーニングが停滞してしまう。そのため家でもなるべくトレーニングパンツで生活してもらう。

▶例えば、ずっとやるのはハードルが高いときは、「帰宅してからお風呂に入る前まで」等時間を区切るのもよし。

## ●食事について

- 最近目立つのは、終わりまで座って食られない子。食べながらフラフラと立ち歩いてしまう。
- トイレと同じくらい大事なのが食事。好き嫌い、スプーンの持ち方、その日の気分…食べ終わりまで座っていられない子も多く、いっぱい手が欲しい!と思う。そんなとき、年中長の子どもたちが、自分が早く食べ終わるとお手伝いに来てくれる。それを受け入れるのもベテラン保育者の力量。
- 保育者が口に運んでも食べなかったのに、お兄さんお姉さんがやると素直に食べてくれる。食べさせた子も嬉しいし、お手伝いしてもらった子も嬉しい。口に運んでもらった子は、自分が年中長になったときに、きっと小さい子に優しくできるだろう。
- たくさん遊んでおなかを減らし、食事意欲をかき立てる。好き嫌いも多い年齢だが、だましが効くのもこの年齢。魔法をかけたりのせることで大抵のものは食べられる。
- 食わず嫌いには、なんとか舌の上に乗せられたら一歩!口に入れてみたら食べられたというケースが多い。



## ●満3歳児クラス・保育の実際

原町幼稚園の満3歳児クラスは、年少以上のクラスのように年間のカリキュラムが固定されておらず、途中入園も多いため、担任がクラスの子どもたちの発達の状況をふまえて臨機応変に日々の活動を実施していきます。年間活動や運営の基本としているのは以下の項目です。

- 保育園の同年齢こぐま組と連携して園外保育などを実施する。
  - 大きな行事は10月の運動会にこぐま組と同じ種目で参加する。
  - 園内の年少以上が行う行事（誕生会、音楽会、お話あそび会）には見学は自由。
  - 中堅以上の保育者が受け持つことで、園内のどこでもフリーパスを持って関わられるし、手が足りないときはアシストの要請もしやすい。（皆でフォローする体制を心がける）
  - 兄姉をはじめお兄ちゃんお姉ちゃんに人気者のうさぎ組!「お世話をしたい!」と部屋に気軽に出入りできる雰囲気醸成し、異年齢交流を活発にして発達を促す。
- ※具体的な内容については最後のページの募集要項をご覧ください。

## 《あそびについて》

- ▶遊びコーナーの設置…その日に遊ぶ玩具を、子どもの手が届く場所に設置し準備。  
座って遊ぶもの・パズルetc.→机の上に設置  
ブロックや積み木etc.→マットを敷いて範囲をわかりやすくし、その上で遊べるようにする
- ▶目で見るのが1番分かりやすく、興味が沸く  
玩具をただ置くのではなく見本となるものを飾っておく→どうやって遊ぶものなのかイメージしやすくなる、子ども自身で考えようとする。  
パズル→完成品を展示しておく  
ブロック→作品を飾っておく（真似して作ってみたくなる）
- ▶片付け方法も目で見てわかるように表示する。  
片付ける場所にその対象の玩具の絵や写真を表示しておくことで、何をどこに片付けるのかがわかり、自分でできるようになる。
- ▶片付けは必ず子どもと一緒にやる。一緒にやることで片付けの楽しさも感じられるようにする。  
子ども任せにしない。  
ex.「お片づけして」→「一緒に片付けよう」
- ▶イメージしやすい、見通しのある伝え方をするとわかりやすい。  
ex.イラスト表示、歌に乗せて何をするかわかりやすく伝える  
♪おかたづけ～おかたづけ～（片付け時）  
♪ごはんにしましょ、ポンポン～（食事前）  
♪きれいにしましょ～（トイレ、手洗い時）  
歌が聞こえると自然と行動するように。



## 《挨拶・会話》

- ▶「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」など言葉にして伝えることを丁寧に教えてあげ、自分の口で言葉にして伝えるように促す。
- ▶家庭だと子どもが言葉で伝えなくてもどんどん物事を進めたり、子どもの言葉を待たずに代弁したりする様子が見られるので、園ではいったん立ち止まって「なあに？」と返して子どもが自分の気持ちを言葉で伝えられるようにしている。

## 《散歩・園外保育》

- ▶散歩は月2、3回、園外保育は月1回。園外に出ることで交通ルール、園外の自然事象に興味関心を持ち、気づきや知識に繋がる。近所の人と挨拶を交わすことでコミュニケーション能力や挨拶の大切さを知る。園内にはない遊具にチャレンジすることもできる。



## 〈友だち〉

- ▶一緒に遊んだりかかわることでコミュニケーション能力が育つ。「いーれーて!」「いーいーよ!」「だーれかブランコかーしーて」「ちょっとまってー」等、一緒に遊んで楽しい♪といった経験も増えるが、家庭より自由がきかず、ぶつかることがケンカにつながることもある。
- ▶しかしそれが我慢する力、気持ちを切り替える力、考える力、解決する力など、さまざまな力に生まれ変わる。
- ▶友だちが関わらなければ何一つ生まれない。また友だちをみて真似することで刺激を受け、自分の力になっていく。



## 〈異年齢〉

- ▶交流を持ち一緒に遊ぶことで、異年齢の友だちを模倣し、たくさんのことを吸収する。優しくしてもらった経験が2年後3年後同じように小さい子に優しくできる心を育てる。
- ▶2歳から3歳になる頃、まだ単語や二語文だった子どもが、さまざまな保育者、友だち、異年齢児の刺激により、言葉・会話がどんどん上達してくる。



はーい!今日は年少のお姉さん先生がきてくれました

## 《トラブル、怪我について》

- ▶玩具の貸し借りの際に多いが、集団生活をする上では必ず起きてしまうこと。
- ▶年齢的に、言葉より先に手や口(かみつぎ)が出てしまったり、感情的になり気持ちが抑えられないことがあるので、すぐに対応、阻止できるように常に子どもたちのそばで見守るようにする。
- ▶起こってしまったときは、その子の気持ちを理解して代弁してあげると同時に、言葉にして伝える方法、伝え方を一緒に考え、必ず代弁して伝えるようにする。  
「○○が欲しかったんだよね」「やめてほしかったんだよね」「貸して”って言ってみよう」「一緒にごめんねしようか」etc…
- ▶やってしまう側、やられてしまった側、それぞれ経験を重ねることで、日に日にどうすれば良いか自分で考えて動くことができるようになる。

## ●保育者として意識していること

- 先生のような母親のような存在。
  - 子どもにとっても保護者にとっても、安心して過ごすことのできる場所、存在であるよう努める。
  - 登園時、母親と離れるときに泣いてしまう子の場合、子どもだけでなく保護者も離れるのが辛い(なかなか離れられない方が多い)ので…(仕事へ行かなければならない保護者、いつまでも泣き続けてしまう子どもの様子を察して)無理に離れる辛さを感じるのではなく、自然に遊びへと導きながら母親と離れるetc…臨機応変に対応する。
  - 子どもの気持ちや行動にじっくり寄りそうようにする。寄り添いながらも、時には子どもが自分でやってみたいこと、できそうなことに関しては、見守ったり一緒にやってみるようにする。
- 必要に応じた援助をする。

- イヤイヤ期だからこそ、やってほしいことを単刀直入に言うのではなく、楽しんだり他のことに代えてみながら遠回りして行く。
- 言葉や行動をわかりやすく、大胆に行う。  
(大人の真似をし始めることが多く見られるので、インパクトがあったり印象に残るような楽しい表現で伝える)
- 無理強いをしない。
- 子どもから近寄ってくるような保育をする。
- 愛着関係をしっかり築くようにする。
- 行動、移動ひとつひとつにおいても、表現遊びを取り入れるなどして、楽しみながら保育者に集中できるようにする。  
ex. 「今から〇〇へ行くから付いてきてね」 → 「ちょうちょになってキレイなお花を探しに行こう」「見て！あっちにありそうだよ～！きてきて～」 etc.
- イヤイヤ期といわれ、怪獣みたいと思うこの時期だからこそストレス発散するために広い園庭を思いっきり走り、大きな声で泣いてみたり、家でできない経験が思う存分させてあげたい。
- 〇〇がイヤだ！と言えないが、前後の関わりでこんなことが言いたいんだろうな、と保育者が代弁することで気持ちが落ち着くことがある→そのあと、自分が友だちにしてあげることが多くなる。
- あまり意見が言えない子の言葉や反応を読み取れるのは少人数体制だからだと思う。伝わるのがわかると、だんだん伝えることがこわくない、楽しい！につながる。
- 幼児期の発達を理解しておく。→年少、年中、年長、それぞれ「このぐらいのことができる」ということをわかっているならば、見通しを持って成長へのアプローチや活動ができる。



## オススメ！ほめグー♡作戦

- ▶基本的な生活習慣から大きな経験まで、保育者が適切なやり方をしっかり伝えた上で、寄り添い見守り、挑戦や経験を促せるようにしていく。
- ▶大人が望む行動をしてほしいときは、
- ★励まし促す→挑戦・経験→褒める→自信がつく。自信がつくと次の活力+自分の力になっていく！！
- ▶望ましくない行動をしたときは、よくないこと、誰かが嫌な気持ちになったこと、先生も悲しいこと、自分だったらどうか…簡潔に話して次からしないように話をする。  
(もちろんまた繰り返すのは織り込み済み)
- ▶叱ったときは、いつも以上に褒めるタイミングを見つけてグーッとスキンシップを忘れない！
- ★昨年度の担任が毎日ぜったいやっていたこと
  - ①おはようのグー♡スキンシップは大切。挨拶は絶対忘れない！
  - ②「なあに？」自分の気持ちや要求は言葉で伝える、声を出す。
  - ③なんでもできたらハイタッチ！小さなことでも大きなことでも。





# 2019年度・原町幼稚園 うさぎ組 募集!



「もっとあそびたい!」・・・エールキーがたくさん取り来てお家では飽きりきれないおともだち!  
 「幼稚園に同等のお友だちがいなくてつまらない!」・・・もっとお友だちと遊びたいおともだち!  
 「仕事をすると、保育園に預けるほど長くないの!」・・・「引っ込み思案なの!」と早めに集団生活を体験させたい!・・・  
**そんなお母さん方には、一定早く幼稚園教員を求ける「うさぎ組」をオススメします!**

私たちはうさぎ組に入園した子どもたちの目を覚ますような成長環境を大切にしています。  
 ちょっと早いでは?と思われるかもしれませんが、お母さん方の「早くこれでもかというくらい」でできなくていいという声を聞く度に、子どもって、大人が思っているよりも自分でできる!できることをやらせてあげたい!という思いが強くなっています。  
 年少組から保育時間短縮!とお考えなら、ぜひうさぎ組から始めてください!

## ★うさぎ組の保育目標

- ◎お母さんと離れても大丈夫に出来るよ!
- ◎お友だちと仲よくあそべるようにしよう!
- ◎できることをやして、じぶんでやってみよう!
- ◎せかきり、考える力の基礎を身に付けよう!

## ★保育内容について

- ★園々に遊ぶ時間、みんなで遊ぶ時間、お兄さんお姉さんと遊ぶ時間、歌や絵本、紙芝居の時間などいろいろなあそびを体験すること。
- ★生活習慣の確立(一人で靴を履く、着替えをする、トイレトレーニングなど)を促します。
- ★めいめいお話しが出来るように、考える力の基礎を育てていきます。
- ★季節行事、紙芝居制作などもとり入れていきます。慣れてきたら園外保育にも行きます。
- ★運動会など大きな行事については無理なく参加できるようにしていきます。
- ★うさぎ組のお友だち同士でももちろん、他保育園の同年齢クラス「こども組」とも連携して活動を行うことにより、幅広い人間関係の学習や、体験の幅を広げること一つの特徴です。

## ★保育時間、保育日について

- ★1日保育・・・保育日の8時15分～14時(幼稚園と同時)
- ★半日保育・・・保育日の8時15分～11時半(私立高校の希望者対象)
- 入園前体験、園生活に慣れるまでは「ウォーミングアップ保育」を行い、短い時間からスタートして徐々に時間を長くしていきます。(園々に相談します)
- 園生活がスムーズに出来るようになれば、保育日は月曜から金曜の、保育時間、休園日は年少児と向います。
- 園生活に慣れてきたら朝から保育「あそびっこ」利用可能です。
- 無病は特別なので、お子さんの状態に合わせて保育時間や保育日などは担任、教員と相談しながら決めていきます。
- 園の行事、行事の準備などでうさぎ組だけお休みさせていただく場合があります。
- 事前にご連絡いたしますので予めご承知くださいと思います。
- ※たまごクラブなどイベント開催日及びお休みの日、はできるだけ朝早くイベント参加をお願いいたしますが、都合の悪い場合はご相談下さい。



## ■募集人数について

- 定員 30名、準給クラス。(担任2名予定、人数に応じてアシストが加わります) ■注意!うさぎ組が定員になった場合、翌年度年少児の募集はありません。
- 希望者がいけば、4月の保育開始日からスタートします。(2019年4/8 始業式予定)
- バス利用等につきましては園々にご相談を承ります。

## ■入園対象

- (1) 年度内に3歳になるお子さんで、2歳からのお預かりが可能です。
- (2) 併し、2歳児は育児実生進級として受け入れ、満3歳から正式入園となります。  
★2歳児は、任意の進級なので出席日数には入りませんが、保育内容は変わりません。  
誕生日が来たらお部屋でお誕生会を行います。
- (3) 基本的に教育時間対象(1号認定)のお子さんを優先とさせていただきます。  
○2号認定の場合は、保育時間短縮認定などお子さんに負担の少ない条件でお受けします。  
○入園式は年少にあがるとき(4月)に新入園児のみんなと一緒にいきます。



★うさぎ組1日の流れ★

- 8:15 open
- 9:30 登園完了
- 10:00 お集まり
- 11:30 半日保育時間  
昼食準備
- 12:00 昼食
- 13:30 お預り準備
- 14:00 お預り

昼食は水曜日と誕生会の日はお弁当、月火木金は園外保育園の提供の給食です。

## ■2019年度 入園料・諸費用等

- 申込時に入園料 25,000円 + 入園手数料 5,000円
- 毎月納付金 ◎2歳児の場合、1日保育(うさぎ組)・保育料月額 25,000円(教材費等を含みます)給食費・バス費、園外保育おそびっこ等は実費
- ◎3歳児の場合、半日保育(プチうさぎ)・保育料月額 12,000円(教材費等を含みます)バス費等は実費
- ▼New menu! 入園料に3歳になったときは、3歳になる月に市に認定申請を提出し、認可が下りなければなりません。
- 2歳児は1ヶ月単位での(お休み)も可能です。前月20日までにご相談下さい。
- ◎満3歳になったら、認定市の保育料基準額 + 施設維持費 1,240円 + 教育向上費 1,000円 給食費・バス費、園外保育おそびっこ等は実費
- 3歳になった翌月から所得と条件に応じた額が適用となります。/日にも関係なく月額となります。
- ▼Good news! 10月から保育料基準額は無料になる予定です。

- 名札、カラー帽子、ICカード、ネームストラップなど基本アイテムの購入が必要となります(約3,000円)
- 制服、個人道具等の購入は年少組に上がったときに購入していただきます。
- 通園バス利用の場合は一ヶ月2,500円になります。(お通園引込金額おおよそ1名あたり/月2,000円)
- 給食費 340円/1回、月利給金 440円/月、など実費は月末に集金。
- 入園したら保護者会に入ります。保護者会費(500円/月)を保護者会に納付します。

★つエルカムプレゼント★  
 毎日使うタオル等をプレゼントします。

★うさぎ組とは別に一時預かり(2～3歳児)もあります。  
 うさぎ組入園前に預保育として利用できます。  
 入園後に半日保育(プチうさぎ)の保育午後利用するなど、任意に空きが空けば別料金利用も承ります。  
 詳しくは印刷一時預保育(一輪車)の利用について、のプリントをご覧下さい。

幼稚園設置定こども園  
**原町幼稚園**  
 〒410-0312 静岡県沼津市原 199-01  
 tel 055-966-7338 fax9667370  
 mail osaka@haramachi-ki.jp



よいしょ…今日はみんなでのぼって…



原町幼稚園 園長 鶴谷主一 (58)  
HP : <http://www.haramachi-ki.jp/>  
MAIL : [office@haramachi-ki.jp](mailto:office@haramachi-ki.jp)  
Twitter : @haramachikinder  
Instagram : haramachi.k

▶記事の内容でご感想・ご意見ご質問等ありましたら  
気軽に連絡ください。



チャレンジ岩のうえでおやつだって！



みんなのぼれてよかったね♪

- 
- 「幼稚園の現場から」ラインナップ
- 第1号 エピソード (2010.06)
  - 第2号 園児募集の時期 (2010.10)
  - 第3号 幼保一体化第 (2010.12)
  - 第4号 障害児の入園について (2011.03)
  - 第5号 幼稚園の求活 (2011.06)
  - 第6号 幼稚園の夏休み (2011.09)
  - 第7号 怪我の対応 (2011.12)
  - 第8号 どうする保護者会？ (2012.03)
  - 第9号 おやこんぼ (2012.06)
  - 第10号 これは、いじめ？ (2012.09)
  - 第11号 イブニング保育 (2012.12)
  - 第12号 ことばのカリキュラム (2013.03)
  - 第13号 日除けの作り方 (2013.06)
  - 第14号 避難訓練 (2013.09)
  - 第15号 子ども子育て支援新制度を考える
  - 第16号 教育実習について (2014.03)
  - 第17号 自由参観 (2014.06)
  - 第18号 保護者アナログゲーム大会 (2014.09)
  - 第19号 こんな誕生会はいかが？ (2014.12)
  - 第20号 ITと幼児教育 (2015.03)
  - 第21号 楽しく運動能力アップ (2015.06)
  - 第22号 〔休載〕
  - 第23号 大量に焼き芋を焼く (2015.12)
  - 第24号 お話あそび会その1 (発表会の意味)
  - 第25号 お話あそび会その2 (取り組み実践)
  - 第26号 お話あそび会その3 (保護者へ伝える)
  - 第27号 おもちゃのかえっこ (2016.12)
  - 第28号 月刊園便り「はらっば」 (2017.03)
  - 第29号 石ころギャラリー (2017.06)
  - 第30号 幼稚園の音楽教育 (その1・発表会)
  - 第31号 幼稚園の音楽教育 (その2・こどものうた)
  - 第32号 幼稚園の音楽教育 (その3・コード奏法)
  - 第33号 〔休載〕
  - 第34号 働き方改革・一つの指針
  - 第35号 働き方改革って難しい
  - 第36号 満3歳児保育について
-